

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100108		
法人名	医療法人社団 湘風会		
事業所名	グループホーム ラパス		
所在地	栃木県矢板市泉557-1		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町村受理日	平成27年7月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	平成26年8月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域のボランティア(フラダンス・日舞・どじょうすくい・和太鼓など)を積極的に受け入れ、利用者様と楽しいひと時を送れるようにしています。また、隔週でヤクルト販売が来所するので利用者様の好みでヤクルト・ジョア・ヨーグルトを購入して午後のおやつの時に食べています。最近は、「一緒に手作りの日」を月に1度程度計画して畑で収穫した野菜や食べたいものを確認して利用者様と野菜切りなどを皆さんと食べています。隣接している小規模多機能型居宅介護施設こもれびと合同行事(初夏コンサート・秋祭りなど)を計画して地域住民や利用者様や職員の方々及び家族と親睦を深めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>小規模多機能型居宅介護施設こもれびが併設されており、研修や行事(コンサートや秋祭り)などを合同で実施している。食堂を兼ねたリビングは天井が高く明るく開放的であり、サッシ戸を開けてウッドデッキに出ると敷地内の畑や隣接する水田を見ながらくつろぐことができる。日々のレクリエーションの際には、利用者の個性に合わせてゆっくりと、職員と一緒に楽しんでいるなど、日常のケアのなかで「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」の法人理念を実践している。フラダンス、どじょうすくい、語り部、大正琴など多数のボランティアが来訪する、事業所の秋祭りには地元住民が参加する、地域公民館の作品展には利用者の作品を出展するなど、事業所と地域の交流が活発に行われている。法人全体の学習会、事業所間の交流研修、併設小規模多機能事業所との合同研修、事業所内研修など職員の資質向上と計画的な育成を目指した研修体制が整えられている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」の理念をもとに利用者様が個々の生活ができるように自分でできることは実施していきながら例えば手作り料理で個々の能力を活かしている。	毎月の定例会議などで法人理念を念頭に置いた話し合いをしている。ゲーム遊びや手作り料理などのレクリエーションを個々の入居者の個性に合わせてゆっくりと、職員と一緒に楽しんでいるなど、日常のケアのなかで法人理念を実践している。	法人の理念に基づき事業所の運営・実践を行っているが、今後はさらなるサービスの向上に向けて管理者と職員が話し合って事業所独自の理念を作り上げていくことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの定期的な来訪及び同事業所のこもれびと行事を楽しんだり地域公民館の作品展に出展して見学に出掛けている。	フラダンス、どじょうすくい、語り部、大正琴など多数のボランティアが来訪している。事業所の秋祭りには地元住民が参加し、太鼓をたたいたり、施設内でお茶を飲んだりしている。地域公民館の作品展には、入居者の貼り絵、塗り絵を出展するなど、事業所と地域の交流が活発に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族の方々及び地域の方々に認知症がどのようなものか知っていただく場を設けていきたいと思うので今夏に認知症サポーターの講習会を実施する。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において区長や地域住民の方の意見を伺い、公民館活動や地域の祭りなどの参加をしている。	会議には、家族代表、地域代表の区長、民生委員や消防団長、市の担当者、地域包括支援センターの職員が参加している。会議では、定例的なサービス状況や行事の報告、運営に関する意見の交換などが行われている。家族や地域代表からは、どの程度なら利用できるのかなどの基礎的な質問や、どこまで看取ってくれるのかなど介護に関する質問が出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	矢板市のサービス連絡協議会やグループホーム部会に出席して日頃サービスで悩んでいることを意見交換し他事業所と情報交換をしている。	市の担当者はほとんど毎回運営推進会議に参加し、運営に関するアドバイス、市からの補助金などができたなどの情報提供などをしてもらえるなど、日頃から連絡は密にしている。また、包括支援センターとは、運営推進会議への参加、困難事例の対応の相談等で連絡を密接にとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを目指しマニュアルの確認を行っている。	「身体拘束禁止に関するマニュアル」に基づき、個々人が実践の中で常に確認を行い、定例会議等で職員間で話し合いながら身体拘束のないケアに努めている。また、入居者に対する言葉による行動抑制等についても、声かけの際に一方的で強制するような言葉は使わないなど言葉の暴力に気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会・定例会議等で話し合い常に虐待の防止に努め些細な言動についても気配りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で外部講師を招いての研修を実施し理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する場合は施設長・管理者・介護支援専門員から具体的に説明し疑問や不安な点についてお答えしたうえで十分な理解と納得をしていただき契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族及び利用者から要望・苦情が出た場合に職員間で話し合い繰り返さないように気をつけながら管理者・介護支援専門員が中心に報連相して改善に努めている。	職員の名前が分からないという家族の声に対して、家族参加のコンサートの際に職員を紹介したり、玄関に職員の名前を掲示したりしている。また、お茶が熱い、入浴時間を変更したいなどの入居者の要望や苦情に対しても、職員と話し合いながら管理者、介護支援専門員が中心になって可能な範囲で対応している。	職員の名前が分からないという家族の声に対して、行事の際に職員紹介をするなど意見を反映した運営に努めているが、家族が訪問時に職員の名前と顔が一致するようさらに工夫することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に月1度の定例会議で積極的に参加していただき意見を出し合い改善の方向に努めている。	勤務の関係で出席できない職員を除き、職員全員参加の毎月の定例会議で、行事の反省、今後の予定、利用者の状態の確認、業務の改善等の話し合いを行っている。各種の行事は職員が担当し、手作り料理の日のメニューは職員が提案して決めるなど、職員は生き生きとして入居者を楽しませている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長・管理者が適度にヒアリングを行いながら各職員の現況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者講習や同事業者間交流で認知症に対する講演会や勉強会を通して情報交換をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム交流会や同事業者間交流に参加して事例検討や情報交換をふまえサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いつでも相談しやすいように丁寧に且つ明るい笑顔で本人の生活歴などを確認しながら対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に現況を十分に確認しながら当施設の情報交換しながら話し合いに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が居心地良く過ごせるようにニーズの把握するために常に幅広い知識と家族から情報を把握しながら良い方向に支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ること出来ないことを把握し食器拭き・洗濯物たたみやカーテン開閉や食事作りなどを自分たちで出来ることを共に過ごす者同士として良い関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来た時は個々の居室でゆっくり話が出来るように配慮している。また利用の様子を定期的にお知らせして健康状態・薬の管理などを連絡をしている。病院受診は原則として家族対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り合いの方々が何時面会に来ても気軽にゆっくり話ができるように配慮している。	知り合いの訪問で居室で話はずんでいたり、入居者の家族が仕事の帰りに立ち寄っていたり、孫やひ孫が訪問してきたり、月命日に娘さんが迎えに来て墓参りをするなど外部との関係が継続している。事業所としては、来訪者が話しやすいように部屋に誘導したり、いつ訪問してもよいように配慮するなどの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様は共に生活する仲間ということを理解している方々が多く見られる。また職員は各利用者の性格などを理解し孤立しないように食堂の席替えなどを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居された方の家族と会う機会があれば情報を交換をしている。入院した場合も時々面会してその後の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の思いはそれぞれである。本人のしたい生活の思いを受け止め職員とともに実践している。	話しても理解するのに時間がかかる方、被害妄想の方などがいるので、時間をかけて話すようにしている。また、日常生活の様子を見て、意向をくみ取り、興味がありそうなものを職員が提案するなど、声かけ、寄り添って思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについて家族や本人に聞き取りをして趣味や嗜好なども確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶をしながら様子を確認を確認している。どうしても居室内にこもりがちになる方には動きのある外出なども支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の後モニタリングを職員と共に行いより良い生活ができるように支援している。	ケアマネージャーは、入居者や家族からの意見・要望を聞き取り、入居者の生活状態やケアの実践状況について定例会議等で議論された結果等を踏まえ、サービス担当者会議を経て介護計画を作成している。ケアマネージャーは入居者の買い物、散歩、草取りなどに同行するなど、できるだけ介護現場に入り、その人らしい生活の実現を念頭に置いて、介護計画の作成及び見直し等を行っている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録をの読み込みをして職員からの報連相を大事に受け止めて改善すべき課題があれば実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様にとってより良いサービスができるように努めている。地域性を活かし施設周辺の散歩や施設の畑作りや外出に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民のフラダンスや踊り・民謡・大正琴・どじょうすくいなどのボランティアの方々に来所していただき楽しい時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は基本的に家族にお願いしているが遠方に住んでいる方や状態が急に大きく変わった方は同行し現状を伝えている。	かかりつけ医への受診の付き添いは原則として家族が行っている。日常生活の状況については口頭やメモ等で家族に伝えている。家族が付き添えない時や医師に状況説明が必要などときにはケアマネージャー等が同行している。受診結果、服薬等に関しては、ケアマネージャーが家族から報告を受け、職員には定例会や連絡ノート等で伝え情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する事業所(こもれび)の看護職と連携して利用者の状態を診ていただきアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があれば速やかに病院を訪問して状況を担当看護師などから確認して退院時も病院でケアカンファレンスを含めた関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症の進行や身体の状態が重くなった時に備え特養や老健等の説明や申し込みを家族と話し合いをしている。	重度化した場合の対応については入居時に家族に説明している。認知症の進行や身体状況の変化に応じて、「どのような状態まで」対応できるか事業所の現状を説明し、特養など施設への移行や申し込みについて家族と話し合いをしている。法人全体の研修会や勉強会は行われているが、医療連携や事業所の体制等はまだ整っていない状況である。今後、研修や話し合いを通じて職員の理解を深めていきたいと考えている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針の確立を目指して、今後も研修会等を重ね、医療連携体制等を整えていく努力をしていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを分かりやすい場所に掲示して定例会議等で再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年2回)に消防訓練を実施(昼間・夜間想定)して消防署から指導を受けている。緊急連絡網も分かりやすい場所に掲示している。	昼間と夜間想定で年2回消防訓練を実施している。訓練計画の内容については、事前に職員に説明し、役割分担決めを行っている。6月の訓練では消防署から初期消火の指摘や、職員からの反省点が聞かれ、次回の訓練の参考したいと考えている。緊急連絡網が目に着く所に掲示されており、災害備蓄品も2月の大雪の経験から見直され徐々に整えられている。緊急避難場所として市役所から協力要請を受けている。	訓練時の反省点を踏まえ、状況の把握と落ち着いた行動を心がけ、地域と連携した避難訓練の実施を目指して、一層の努力を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライドを重んじ名字で言葉をかけているが同姓の方には、下の名前で呼んでいる。排泄時は、そっと近くで伝えている。また気持ちをいつも平常心を保ちながら言葉をかけている。	プライバシー保護についてのマニュアルがあり、定例会等で確認しあっている。トイレ、入浴時の介助の際には、プライドを傷つけないよう、入居者の気持ちに沿って行っている。日々の楽しみを見つけ、行動を理解し、声かけの際には一方的に話すことがないように注意するなど、一人ひとりを尊重した介助に努めている。	個人のファイルがひとまとめに籠の中に入れて廊下に置かれていた。利用者の目につかない場所に保管するよう気をつけてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との日々の会話や表情などを通じて本人の思いをくみ取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の行動ペースは違うのでできる限り希望に添えるよう個々にあった生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備はできる限り利用者と一緒に着替えを選んで取り替えている。また時々ボランティアの方に来所していただき女性利用者様はお化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した食材を利用して食事に一品出して食べていたり「一緒に手作りの日」を設けて野菜を切ったり味見をしていただいている。	ごはんと味噌汁は職員が手作りし、主菜と副菜は配食業者や近所の鮮魚店へ注文している。敷地内にある畑の夏野菜を調理して一品加わることもある。月1回実施している「一緒に手作りの日」は、入居者と職員が一緒に行き食事などを手作りし、特に餃子や七夕まつりのソーメンは好評である。時々テーブルの席替えを行い、職員との会話や入居者同士の声が多く聞かれる楽しい雰囲気のある食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	起床時に朝一の緑茶を飲んでいただき毎食ごとのほうじ茶や嗜好に合わせた飲み物などを飲んでいただき食事摂取量を毎食確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の歯磨きや口漱ぎを実施している。苦手な方には介助の言葉かけをしながら対応している。		
	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に同性介護をしているが時と場合には異性介護もあるので気配りを大切にしている。個々の排泄パターンを把握しながらも時間を見て言葉かけをしている。自分で出来る方も排便確認の為に退室ごに何気なく訪室している。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、個々人に合わせたトイレ誘導を行っている。自立している人もいるが、ほとんどがパッド、リハビリパンツを使用しており、夜間にポータブルトイレを利用する入居者もいる。トイレ誘導の声かけは、無理をせず時間をおく、耳元で声かけをするなど、本人の意思を尊重しプライドを傷つけないような対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後に毎回ヤクルトを飲んでいる。副食に野菜(特に根菜もの)を出したりおやつにヨーグルトをだしている。排泄表を見て排便がしばらくしない方々を申し送りしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々が週3回入れるよう計画している。季節に応じた浴槽(菖蒲湯・ゆず湯)にしたり入浴剤を入れている。個々にあった入浴時間も考えながら入っている。	入浴は、週3回で午後の時間に入っており、身体状況により、2人介助やシャワー浴等で対応することもある。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯なども楽しんでいる。本人が選んだ洋服を着替えたり、声かけ、誘導もその方のペースで行うなど楽しくゆっくり入浴出来ることに心がけている。皮膚病の対策にタオル、マットなど個人ごとに交換し、薬の塗布、水虫専用の手袋を使用するなど気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて室温調整や室内灯を微妙に調整しながら対応したり夜勤者の靴音が響くので気を使って移動したり工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が二人で内服薬の確認をしている。個々の薬を渡す前に袋に書いてある名前・日付・服用時間を読み上げてから内服薬を渡して服用を確認してから離席している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった役割(例食器拭きなど)や楽しみごとを日々の係わりから見つけ出すように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出行事を計画したり天気の良い日に周辺を散歩したりおやつ等を買って近くの店に出掛けたりしている。	季節の行事としてお花見(さくら、あじさい、紅葉)に行き外食もしている。月命日のお墓参り、道の駅やコンビニに買物、畑の草取り、散歩で神社や公民館まつりに行っている入居者もいる。個別の外出はまだまだ限られているので、個人の意向に沿った外出機会をすこしずつ増やして行きたいと考えている。近所にレトロな喫茶店があり、お茶をのみに行く予定である。	日常的な外出の機会が少ないので、入居者の体調や好みに合った外出の機会を増やすことを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先で買い物をした時に職員が見守りしながら利用者に実際の代金を支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通院のお知らせや近況が書いてある手紙を家族からいただき個々に渡している。状況により家族と電話で話をする場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の様子を写した写真の横に職員のアレンジしたコメントを記入して利用者の目に留まる廊下に掲示して思い出していただいたり毎月に応じたカレンダーを作成して食堂に貼りだしている。	リビングは天井が高く天窓もあり木のぬくもりが感じられる明るい空間であり、併設されたウッドデッキに出てイスでひなたぼっこをする利用者もいる。壁に貼ったカレンダーや塗り絵などの入居者の作品の穏やかな色使いが落ちついた雰囲気を醸しだし、生け花が季節を感じさせる。廊下には餃子作りや親子太鼓などの行事の写真が貼られ、写真にはたくさん笑顔が見られ楽しさがあふれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の過ごしたい場所でゆっくり穏やかに過ごしていただいている。利用者様の部屋やホールのソファ等で寛いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置を家族と本人様に決めていただいたり家族写真などを居室に飾ったりしている。毎日居室掃除をしたりタンス整理も本人が混乱しないように種類別に明示したりしている。	家具やベッドの位置は家族や本人の希望で決められ、壁には行事の時などに事業所から頂いた賞状や、本人が書いた塗り絵など飾られている。西日が入る窓にはすだれが掛けられており、掃除や整理整頓を職員と共に行い、居心地の良い環境を整えている。居室のドアには間違えないために大きな字で名前が書いてある部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも移動可能なように広い造りとなっているため自立した生活が支援できるように努めている。		